

大阪市立聖和小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

- 大阪市小学校学力経年調査の実施学年においては、全教科で平均正答率が大阪市平均を上回っている。正答率別に見ると、正答率7割に満たない児童の割合は昨年度より減少傾向にあるが、2割以上上回る児童も減少傾向にある。これまでの取組をさらに深化させ、自分の考えをまとめ、表現する力や、最後まで粘り強く取り組む力を育てていく。
- 大阪市小学校学力経年調査の実施学年において、「自分には、よいところがあると思いますか。」の質問に、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と回答した割合は 78.3% であった。大阪市平均は上回っているが、学年毎のばらつきあり、学年間での差が大きかった。また、一昨年度の全国学力・学習状況調査時の同様のアンケートの校内結果と比べると 3 ポイント下回っており、児童の実態把握に努めながら、自己肯定感が高まるような取組を進めていく。
- きまりを守って生活をしている点では「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と回答した割合は、平均9割を超えており。児童が安心して心豊かに成長できるよう、今後もこの成果を維持していくことが重要である。

中期目標 前年度までの 2 項目から下記の 3 項目に変更 数値目標は学校独自で設定

【安心・安全な教育の推進】

- 小学校経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85% 以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40 % 以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において、経年的に比較し、いずれの学年の前年度より 1 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80% 以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 55% 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- デジタル教材を活用した朝学習を週 1 回実施する。
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90% 以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安心・安全な教育の推進】

- 小学校経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85 %以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- **年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。**
- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を、90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40 %以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において、経年的に比較し、いずれの学年の前年度より 1 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 55%以上にする。
- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- デジタル教材を活用した朝学習を週 1 回実施する。
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90%以上にする。
- 教科研究(社会科・生活科)に取り組み、3 学期に成果を発表する。

3 本年度の自己評価結果の総括

全市共通目標における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較したところ、国語においては 0.97～1.05 ポイント、算数においては 1.02～1.12 ポイントであった。国語においては目標値の 1 ポイント向上を達成することができない学年もある結果となった。読書をすることが好きな児童が多いので読書の習慣を大切にして、今後も指導を重ねていく必要がある。また、不登校になる児童の増加がみられたが、児童の教室以外の居場所作りや保護者との連携を密にとるなどするなど丁寧な指導を今後も継続していくことが重要である。

大阪市立聖和小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
-----------------------------------------------	--------------------------------------------

年度目標	達成状況
<p>【安心・安全な教育の推進】</p> <p>全市共通目標（小学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 ○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を、90%以上にする。 ○ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ○ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 ○ 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1－1　いじめへの対応】 校内生活における課題を教職員間で共有化し、児童が楽しく安心して生活できる環境をつくる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に1回「いじめ・虐待等生活指導委員会」を開き、学級や学校でおこっている問題を全教職員が共通理解し、協力して指導にあたる。また、場合によっては臨時でもいじめ・虐待等生活指導委員会を開き、軽易な事案であっても毅然と指導にあたる。 	A
<p>取組内容②【基本的な方向1－2　不登校への対応】 不登校気味な児童についての実態把握を全教職員で行い、校内の支援体制を強化する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクリーニングシートを年2回作成し、不登校気味児童の遅刻・欠席を継続調査し分析していく、指導支援にあたるための資料として活用する。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向2－1　道徳教育の推進】 道徳授業だけでなく、教育活動全体で規則尊重に関する指導に取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年4～8回、学年児童の発達に合わせたSSTを全学年で行う。 ・学期毎の学校生活に関するアンケートで「きまりを守っていますか」の項目を90%以上、「毎日、友達や先生にあいさつしていますか」の項目を85%以上「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と児童が回答するようにする。 ・毎月生活目標を設定し、朝会及び学級で毎週時間をとって指導する。 ・道徳の授業で情報教育や規則尊重の指導に重点を置き、実践したことを探査ページや学年だよりなどで家庭に伝えることで家庭と学校が協力して道徳教育を実践する。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容①】	・月に1回の「いじめ・虐待等生活指導委員会」や週1回の児童理解により、学級や学校でおこっている問題を全教職員が共通理解し、協力して指導にあたることができた。
【取組内容②】	・月に1回の「いじめ・虐待等生活指導委員会」や週1回の児童理解により、学級や学校でおこっている問題を全教職員が共通理解し、協力して指導にあたることができた。しかし、不登校気味な児童の遅刻・欠席状況の改善までは至っていないが、保護者との連携により出席日数が増えている児童もいる。 ・年2回スクリーニングシートを作成し、不登校気味な児童の遅刻・欠席を継続調査していく。
【取組内容③】	・SST を全学年で行ったり、朝会及び学級で毎週時間をとって生活目標について指導することにより学期毎の学校生活に関するアンケートで「きまりを守っていますか」の項目を92%、「毎日、友達や先生にあいさつしていますか」の項目を92%「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）と児童が回答した。 ・道徳の授業で情報教育や規則尊重の指導を行っているが、実践したことを家庭に伝えることは十分ではない。しかし、道徳活動の一環として学年行事等で取り組んだ児童の様子などは学年だよりで家庭に伝えている。

次年度への改善点	
【取組内容①】	・次年度も継続して共通理解の場をつくり、課題解決に向けて全教職員で協力して指導にあたる。
【取組内容②】	・次年度も継続して不登校気味な児童の遅刻・欠席を調査、分析（スクリーニングシートを活用）し、家庭に対しても協力を仰ぎながら支援をする。
【取組内容③】	・学校だよりで道徳教育に関する内容を知らせているが、道徳の授業で指導したこと学年だよりで端的に伝えるのならば、学期に1回するのか、学期末に1回するのかを道徳部で検討する場を設ける。 ・継続して規則尊重の大切さを指導し、自発的に規則を守ることができる児童を増やしていく。

大阪市立聖和小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において、経年的に比較し、いずれの学年の前年度より1ポイント向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を55%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○ 小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【基本的な方向 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】 聖和トライアングル（話し合い活動、板書、ノート指導）を充実させ、子どもの学びを深める授業を行う。</p> <p>指標 学校生活に関するアンケートで「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」と回答する児童を80%以上にする。</p> <p>取組内容②【基本的な方向 4-3 英語教育の強化】 外国語の学習において、TPCを活用することで、子どもが主体的に活動できるようにする。</p> <p>指標 学校生活に関するアンケートで「外国語の授業でTPC（デジタル教科書）を使って、学習に役立てることができる」と回答する児童を80%以上にする。</p> <p>取組内容③【基本的な方向 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】 基礎運動能力の向上をめざし、聖和小学校独自のサーキットトレーニングを継続して実施する。特にボールを投げる運動を体育科学習の中で取り入れる。</p> <p>指標 体育科の授業の充実を図り、特に課題のあるソフトボール投げの平均記録を前年度より向上させる。</p> <p>取組内容④【基本的な方向 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】 健康な生活が送れるように指導を進め、よい習慣が身に付くようにする。</p>	進捗状況 B B B B

指標 学期に1回の健康週間や、年2回の生活実態調査を実施する。

取組内容⑤【基本的な方向 5-2 健康教育・食育の推進】

「しおりピカピカの日」の取組を継続し、食に対する関心を深めることができるようにする。一方で個別対応が必要な給食については安全管理・事故防止のための体制を整える。特に弁当持参の児童に対する事故防止の方法を考え、実践する。さらに、中学校給食の充実に向けて、小学校からの一貫した食育の継続・継承をする。

A

指標 「給食だより」(月1回)「食育だより」(年4回)を発行する。しおりピカピカの日(月1回)、給食週間(1月実施)の取組を行い、実態調査を実施する。

弁当持参の児童に対し、「常温」「冷蔵」の名札や、弁当受け渡し担当者が分かる表を作成し、活用する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容①】

- ・学校生活に関するアンケートで「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」と回答する児童は79%であったことから、全ての教科において、児童の実態に合わせて、聖和トライアングル(話し合い活動、板書、ノート指導)を充実させ、子どもの学びを深める授業を行うことができていた。

【取組内容②】

- ・学校生活に関するアンケートで「外国語の授業でTPCを使って、学習に役立てることができる」と回答する児童は83%であった。大型TVにデジタル教科書を提示し、外国語の歌や物語を楽しみ、C-NETの先生とも主体的に交流したりNavimaで学習を深めたりすることができている。

【取組内容③】

- ・一年間、サーキットトレーニングを準備運動に取り組むなどして行うことができた。ソフトボール投げの記録は、同一母集団との比較で前年度より記録を上回ることができた。

【取組内容④】

- ・学期に1回の健康週間や、年2回の生活実態調査を計画的に実施することができ、自分の生活習慣や健康・衛生面に対して意識を高めることができた。

【取組内容⑤】

- ・「しおりピカピカの日」や給食週間の取り組みをおこなうことで、食べ物に対する関心や、給食に関わる人たちへの感謝の気持ちを持つことができている。

アレルギー対応や児童が持参したお弁当の安全管理や事故防止については、複数名で管理する体制を整え、様々な手立てを講じて取り組むことができた。

次年度への改善点

【取組内容①】

- ・話し合い活動についてはアンケート結果から、自分の考えを深めたり広げたりできていると考える児童の数が指標より少ない部分もあった。児童が話したいくなる授業づくりや発問のきっかけを指導者が行っていくようにする。また、次年度の座席配置や授業での話し合いの場面を学校としてどのようにしていくか考えていくことも必要である。

【取組内容②】

- ・外国語の学習におけるTPCの活用法について研鑽を深めていくことで、個人で外国語の技能を高めていくことができるようになる。

【取組内容③】

- ・学習内容と関連したサーフィットトレーニングやドリル的な運動を精選し、取り入れていく。
年度当初にサーフィットトレーニングの活用法の研修を実施し、各学年に必要なものを取り入れられるようにする。
- ・ソフトボールの記録をとる場合、記録をとる時期を合わせ、具体的な達成目標を指標にもり込む。
- ・ボール運動強調週間など、投げる楽しさを味わえる活動を今後も取り入れていく。

※来年度は工事のため運動場が狭くなるので、講堂での体育学習を充実させることや、運動場での学習は、単元や領域を絞るなどの工夫が必要になる。

【取組内容④】

- ・健康に対する意識を継続させるために、健康週間以外でも、健康委員会を中心となって、手洗いに対する啓発を行っていく。

【取組内容⑤】

- ・給食の個別対応については、現状の対応を継続して取り組んでいく。
給食委員会を中心に「食器ピカピカの日」を周知したり、食への関心を高める掲示を行っていく。

大阪市立聖和小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ デジタル教材を活用した朝学習を週 1 回実施する。 ○ 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90% 以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 若手教員の育成をはかるとともに、教科研究（社会科・生活科）に取り組み、成果を発表する。 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6-1 ICT を活用した教育の推進】</p> <p>算数科の学習において、TPC（デジタル教科書）を活用することで、子どもが主体的に取り組むことができるようとする。</p> <p>指標 学校生活に関するアンケートで「算数の授業で TPC（デジタル教科書）を使って、学習に役立てることができる」と回答する児童を 80% 以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向 7-1 働き方改革の推進】</p> <p>行事や会議の精選・デジタル化をはかったり、週に 1 度ゆとりの日を設定したりすることで、業務の効率化に取り組めるようとする。</p> <p>指標 行事や会議を効率的に取り組むができるようことで、年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 90% 以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向 7-2 教員の資質向上・人材の確保】</p> <p>「よっぱ会」を中心とした若手研修会を計画的に実施し、若手教員の育成を図る。</p> <p>指標 年間 8 回の「よっぱ会」研修会を行い、「よっぱ会だより」に研修内容を記載し、全教職員が研修を共通理解できるようとする。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【取組内容①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に関するアンケートで「算数の授業で TPC（デジタル教科書）を使って、学習に役立てることができる」と回答する児童は 88 % であった。どの学年でも、教科の特性に合った ICT の活用を進めていくことで、児童の主体性を高めるだけでなく学びの質も深めることができた。
<p>【取組内容②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事・会議が精選・デジタル化され、ほかの業務に時間をさくことができたり 10 日以上の年次有給休暇を 90% 以上の教職員が取得できたりした。
<p>【取組内容③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員の研修会「よっぱ会」を計画通り進めた。学級での授業実践や児童会活動など、スクールアドバイザーの先生に指導を受け、児童への指導力を高めることができた。また、「よっぱ会だより」を発行し、職員の目に止まりやすい場所に掲示することで研修内容を発信していた。

次年度への改善点

【取組内容①】

- ・家庭学習での Navima の活用も算数科では効果的であると考えられる。しかし、プリントで学習したほうが効果的な場面もあるため、算数科だけとは限らないが TPC を含めた ICT を継続して活用していく必要がある。

【取組内容②】

- ・業務の効率化や精選を行ってきている反面、行事や業務について十分に共有できる場面が少なくなってきた。そのため、共有すべき事項については時間を確保し共通理解をした上で進めていく必要がある。

【取組内容③】

- ・経験年数が 1 年目～ 9 年目と幅が広いので、何を学ぶべきかという点で、学びたい内容に大きな差があった。来年度の体制やよつば会の方向性について思案することで、年数を参加の年数を再検討していく。